

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばとあたま・体のリハ室2（タッチ）			
○保護者評価実施期間	2025年3月3日		～	2025年 4月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年3月3日		～	2025年3月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 5月 25日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の実践や療育・活動内容の更なる充実	児童発達支援の5領域、保育の5領域を参照しながら児童の得意（まれに不得意も）一般的に活動に還元するように努めている。内容をミーティングにて考案し遂行している。10の姿も参照の対象	10の姿も参照の対象に加えていきたい 同法人内の他事業所のプログラムの長所も積極的に取り入れながら活動内容の常態化を予防していきたい
2	個別や集団でのことばや意味理解の練習、上・下肢や手指～巧緻性といった身体機能の練習、社会性や保育、ADLでの練習が展開できる	遠城寺式乳幼児分析的発達検査、Barthel Indexの比較的簡易なものから、WISCやWPPSIなど各種知能検査やS-M社会生活能力検査、DCDのスクリーニング、PVT-R、JSI-Rの複数検査と観察評価の視点で実施できる	身体発育状況はもちろん、精神発達面や言語・意味理解の状態、ADL自立度、社会性の発達等を早期からチェックして日々の療育に還元させていきたい
3	地域に選ばれ続ける事業所をさらに目指し活動や職場環境の改善を目指す	職員に負担の少ない範囲での季節行事や壁面作成、研修を考案していく。また、地域資源や人材交流を深めながら地域と一緒に生活取り組みを企画していきたい	研修や行事案内をご利用。ご家族さんにも周知するように努めていく。 役所や関係機関と連携を図りながら方向性を一にする事業所との連携を図っていきたいと考えている

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所での家族に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）が行われていない	日々の療育時の症状特性や言語理解の状況などをアセスメントを通じて、ご家族さんへ伝達を行っている。ペアレントトレーニングの持つ意味合いを事業所独自の評価で解釈して良いのか、指標に差異があると考えするため。	モニタリングや個々の情報共有にて療育の進捗報告 年間計画の見直し 早期対策の実践
2	地域に開かれた事業運営や交流の頻度	地域での児童館や福祉祭り等への参加依頼やお声掛けはいただいている。だが、開催時間帯や日曜・祝日などが障壁となりタイミングを逸している現状がある	公共施設利用や図書館などの利用は不定期だが行えている。日中時間帯での参加可能な行事等への参加、継続可能な形態での参加を検討していきたい
3	地震、火事、不審者など訓練実施や周知報告、マニュアルの配布	訓練実施が十分に行えていなかったりする現状がある	年間計画の見直し 早期対策の実践